

令和7年度 墨田区立吾嬬第二中学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価） 教職員中間報告

作成者 校長 佐藤 順一

学校教育目標	○自ら学び、正しい判断のできる生徒 ○思いやりのある生徒 ○心身ともに健康な生徒
目指す学校像	生徒、保護者、地域から信頼される学校、個人の力からチームの力へ ○「学力向上」学ぶことの楽しさを伝える授業の実践、主体的な学習者を育てる学校 ○「心の教育」人権感覚と思いやりの心を育む学校 ○「家庭・地域との連携」保護者や地域の信頼に応える学校 ○「ライフワークバランス」全職員が働きやすい環境を目指す学校
目指す生徒像	自らを律し、自ら判断して行動し、自らよりよい集団を形成できる生徒、そして社会貢献できる生徒 ○学ぶ意志をもち、「読み解く力」「発信する力」を大切に主体的に学ぶ生徒 ○規範意識を身に付け、自分の人権だけでなく他者の人権も大切に思いやりのある生徒
目指す教師像	自らの強みを発揮し、社会的使命を全うするための覚悟と挑戦をする教職員 ○よりよい学校を目指し、組織的に行動できる教職員 ○多様性を理解し、どの生徒にも公平に対応できる教職員 ○保護者・地域の思いを理解し、いじめ・暴力等に毅然とした態度とともにあたたかく指導できる教職員

○令和7年度 学校経営計画における重点内容（特に重点とするもの）

- 知識・技能の定着を徹底させるとともに、自ら考えて表現する授業を展開し、学ぶことの楽しさを知らせ主体的な学習者を育成する。
- 基本的な生活習慣と規範意識の確立させるとともに、人権感覚の情勢から他者の人権も大切にできる生徒を育成する。
- 特別活動を中心に、生徒の自立・自律を推進する教育活動の充実を図るとともに、人を思いやる心のある生徒を育成する。
- 特別支援教育の充実を図る。生徒の課題を的確に把握し、その解決策を考え十分に支援できる教員集団を目指す。
- 学習環境の整備による安心安全な学校運営を行う。
- 業務見直しによる働き方改革の推進を行う。

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	
各教科指導等	基礎的な知識・技能の定着を徹底させるとともに、学ぶことの楽しさを伝える授業を展開する。	各教科、毎時間または単元事に小テスト等の振り返り時間を設定し、結果を基に生徒へのフォローを行う。	4	教員アンケート「授業の振り返りについて」の項目で肯定的評価90%以上	4	1月の学力調査「知識・技能」の項目で全国平均を4ポイント以上上回る。	学力向上委員会を中心に、吾嬬二中プロシージャの徹底を推進していることで、定着し始めている。2学年は飛躍的に向上した。	定着し始めた吾嬬二中プロシージャの徹底を続けていく。家庭学習の定着に課題が残ったので、次年度は家庭学習の定着と基礎学力の向上を合わせて取り組んでいく。	A	A	日々の積み重ねが成果につながっていると思う。放課後学習もありがたい。保護者も家庭学習において協力していけるとさらによくなると思う。
			3	教員アンケート「授業の振り返りについて」の項目で肯定的評価80%以上	3	1月の学力調査「知識・技能」の項目で全国平均を上回る。					
			2	教員アンケート「授業の振り返りについて」の項目で肯定的評価70%以上	2	1月の学力調査「知識・技能」の項目で全国平均より-1ポイント以上					
			1	教員アンケート「授業の振り返りについて」の項目で肯定的評価70%未満	1	1月の学力調査「知識・技能」の項目で全国平均より-1ポイント未満					
	主体的に学習に取り組むことができる生徒を育成する。	探求活動や問題解決など生徒が主体的に学習に取り組むことができる授業を展開する。	4	教員・生徒アンケート「授業展開」の項目で肯定的評価90%以上	4	生徒アンケート「学習へ主体的に取り組む」の項目で肯定的評価80%以上	上記同様、全体で取り組んでいる成果が生徒アンケートで出ている。4月の学力調査に向けて、継続的に取り組み、学習が楽しいと思える生徒を増やしていく。	次年度以降も継続して組織的の取り組んでいく。次年度は、他者の授業を見に行ったり、教科部会を行ったりする機会を設定し、教員の授業スキル向上に努めていく。	A	A	成績として成果が見えるとさらに頑張ろうという気持ちにつながると思う。基礎知識の定着とともに継続して取り組んでほしい。
			3	教員・生徒アンケート「授業展開」の項目で肯定的評価80%以上	3	生徒アンケート「学習へ主体的に取り組む」の項目で肯定的評価70%以上					
			2	教員・生徒アンケート「授業展開」の項目で肯定的評価70%以上	2	生徒アンケート「学習へ主体的に取り組む」の項目で肯定的評価60%以上					
			1	教員・生徒アンケート「授業展開」の項目で肯定的評価70%未満	1	生徒アンケート「学習へ主体的に取り組む」の項目で肯定的評価60%未満					
	自分に合った「進みたい道」を見つけるためのキャリア教育の充実を図る。	年間指導計画に沿って、各学年のキャリア教育の充実を図る。	4	教員アンケート「キャリア教育の充実」に関する項目で、肯定的評価90%以上	4	生徒・保護者アンケート「キャリア教育の充実」に関する項目で、肯定的評価90%以上	概ね達成できている。しかし、今行っている学習が、将来につながっていることに気が付いていない生徒も多くいる。学習の意義を考えさせるなど、学校全体でさらに取り組んでいく。	キャリアパスポートを計画的に活用し、学習の意識付けを行っていく。キャリアパス週間を設定する。	A	A	今の学習が、将来のどこにつながっているかが分かることは重要である。理解することが難しい年代ではあるが、継続して伝えてほしい。
			3	教員アンケート「キャリア教育の充実」に関する項目で、肯定的評価80%以上	3	生徒・保護者アンケート「キャリア教育の充実」に関する項目で、肯定的評価80%以上					
			2	教員アンケート「キャリア教育の充実」に関する項目で、肯定的評価70%以上	2	生徒・保護者アンケート「キャリア教育の充実」に関する項目で、肯定的評価70%以上					
			1	教員アンケート「キャリア教育の充実」に関する項目で、肯定的評価70%未満	1	生徒・保護者アンケート「キャリア教育の充実」に関する項目で、肯定的評価70%未満					
特別活動の充実を通して、生徒の自治力を高めるとともに誰もが「明日も登校したい」と思える学校にする。	生徒会を中心とした生徒が主催となるイベントを行う。	4	年に3回以上実施することができた。	4	生徒アンケート「学校生活の充実」の項目で、肯定的評価90%以上	生徒からの声を大切にしながら教育活動を展開したことで、89%の生徒が肯定的評価だった。否定的評価の11%の生徒に着目し、より充実した学校生活が送れるように、全職員で考えていく。	次年度も今年度に引き続き、生徒主体の教育活動を増やしていく。多くの生徒が参画意識が持てるよう、学年ごとに工夫をしていく。	A	A	生徒の声を大切にしているよい。校外学習の行き先なども生徒の声を反映させるのもよいかもしれない。	
		3	年に2回実施することができた。	3	生徒アンケート「学校生活の充実」の項目で、肯定的評価80%以上						
		2	年に1回実施することができた。	2	生徒アンケート「学校生活の充実」の項目で、肯定的評価70%以上						
		1	1回も実施することができなかった。	1	生徒アンケート「学校生活の充実」の項目で、肯定的評価70%未満						
生活指導等	不登校生徒を出さないための取組と、不登校解消に向けた取組の充実を図り、不登校出現率を下げるとともに、関係機関と連携した支援の充実を図る。	生徒の「生活意識調査」の結果を基に、魅力ある学校づくりの取組の方向性の再確認と改善を図るとともに、関係機関と連携した支援の充実を図る。	4	教員アンケート「不登校出現率の低下に向けた取組」に関する項目で、肯定的評価90%以上	4	不登校出現率5%以下	特別支援委員会を定期的に行い、対策を講じている。校内職員間の共有はできているものの、SCや外部機関との連携に課題を感じている教員が多い。連携の強化を図っていく。	確実に成果は出ているが、時間的ゆとりがなく、SCや外部機関との連携に課題がある。教育課程編成の段階から授業時間数を見直し、教員の時間的ゆとりを確保し、連携が図りやすい環境を整える。	A	A	先生方の感じている「課題」についても詳しく説明が欲しい。また、解決に向けて次年度取り組んでほしい。
			3	教員アンケート「不登校出現率の低下に向けた取組」に関する項目で、肯定的評価80%以上	3	不登校出現率6%以下					
			2	教員アンケート「不登校出現率の低下に向けた取組」に関する項目で、肯定的評価70%以上	2	不登校出現率7%以下					
			1	教員アンケート「不登校出現率の低下に向けた取組」に関する項目で、肯定的評価70%未満	1	不登校出現率7%より高い					
	人権感覚の醸成と思いやりの心を育む教育活動を展開する。	様々な活動の中に、通常学級、特別支援学級、地域と交流する活動を取り入れ、人権感覚の醸成を目指す。	4	教員アンケート「交流活動の充実」の項目で、肯定的評価90%以上	4	生徒アンケート「生活意識」の項目で肯定的評価90%以上	新たに1つの地域行事を取り入れたことで、生徒と地域とのつながりは深まっている。しかし、教員と地域をつなぐを課題としている教員もいる。特別支援学級の生徒も増えたので、新たななかかわり方の検討も必要である。	地域との交流は今までどおり継続する。特別支援学級の生徒も一緒に取り組めるイベントを生徒会を中心に企画していく。	A	A	教員と地域とのつながりは素晴らしいと思う。一方で、地域とのつながりを求めすぎてもいけないと思う。特別支援学級との関わりはとても大切である。
			3	教員アンケート「交流活動の充実」の項目で、肯定的評価80%以上	3	生徒アンケート「生活意識」の項目で肯定的評価80%以上					
			2	教員アンケート「交流活動の充実」の項目で、肯定的評価70%以上	2	生徒アンケート「生活意識」の項目で肯定的評価70%以上					
			1	教員アンケート「交流活動の充実」の項目で、肯定的評価70%未満	1	生徒アンケート「生活意識」の項目で肯定的評価70%未満					

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価				
				評価		評価			自己評価	改善方策			
生活指導等	基本的な生活習慣が確立された集団、規範意識の高い集団を目指した教育活動を展開する。	日々の学級指導や学年朝礼で、規範意識について振り返ったり考えたりする時間を設定する。学級では一人一役を与え、責任をもって行えるように指導していく。	4	教員アンケート「規範意識の醸成」に関する項目で、肯定的評価90%以上	4	4	生徒アンケート「生活意識」の項目で肯定的評価90%以上	4	全教職員が日々取り組んでいる成果が出ている。小さなことを毎日少しずつ指導することも成果につながった要因の1つである。	次年度も、生活指導部を中心に全職員で継続して取り組んでいく。	A	A	全員に役割を与えることはとてもよいと思う。生徒も教員も地域の方へのあいさつが増えてきているように感じる。
			3	教員アンケート「規範意識の醸成」に関する項目で、肯定的評価80%以上		3	生徒アンケート「生活意識」の項目で肯定的評価80%以上						
			2	教員アンケート「規範意識の醸成」に関する項目で、肯定的評価70%以上		2	生徒アンケート「生活意識」の項目で肯定的評価70%以上						
			1	教員アンケート「規範意識の醸成」に関する項目で、肯定的評価70%未満		1	生徒アンケート「生活意識」の項目で肯定的評価70%未満						
生活指導等	安心安全な教育環境を整えるための取組を行う。	全職員による施設点検を通して、安心・安全な教育環境を整え、友に、環境美化に努める。	4	年に4回以上施設点検を行った。	3	4	保護者アンケート「校内環境美化」に関する項目で肯定的評価90%以上	4	定期的に各学年で点検を行っている。今後も継続して、施設面での安全を確保していく。	次年度も経営支援部、管理員を中心に全職員で取り組んでいく。	A	A	いつもきれいに整備されていてとてもよい。
			3	年に3回以上施設点検を行った。		3	保護者アンケート「校内環境美化」に関する項目で肯定的評価80%以上						
			2	年に2回以上施設点検を行った。		2	保護者アンケート「校内環境美化」に関する項目で肯定的評価70%以上						
			1	年に1回以上施設点検を行った。		1	保護者アンケート「校内環境美化」に関する項目で肯定的評価70%未満						
学校の管理運営	教職員の働き方改革を推進する。	行事や業務の見直しを図るとともに、残業時間を可視化して教職員の意識啓発を行う。	4	教職員アンケート「働き方改革」の項目で肯定的評価90%以上	4	4	残業時間45時間以上の職員が20%以下	1	通知表や行事の見直しを通して、残業時間や45時間越えの教員数ともに減少傾向にある。しかし、40%程度の教員が45時間を超えてしまっている。業務の見直しをさらに進めていく。	教育課程編成の段階から、行事の見直しや授業時間数の見直しを行う。必ずしも教員がやらなくてもよい業務を、積極的にスクールサポートスタッフに依頼する。	A	A	残業時間は徐々に減っているということなので、継続して推進してほしい。
			3	教職員アンケート「働き方改革」の項目で肯定的評価80%以上		3	残業時間45時間以上の職員が25%以下						
			2	教職員アンケート「働き方改革」の項目で肯定的評価60%以上		2	残業時間45時間以上の職員が30%以下						
			1	教職員アンケート「働き方改革」の項目で肯定的評価60%以下		1	残業時間45時間以上の職員が30%より高い						
学校の管理運営	経営方針に基づいた組織的・計画的な学校運営を行う。	経営方針に基づく教育活動に対して、生徒・保護者の声を聞き、組織的に改善・見直しを図っていく。	4	生徒アンケート回答率90%以上	4	4	保護者アンケート回答率90%以上	3	欠席者が多く、90%弱の回答となってしまった。回答期間の設定に課題があるという声もあるので、見直しを行う。	次回以降のアンケートは、回答期日を長めに設定して、95%を超えるようにする。	A	A	今後も継続して取り組み、アンケート結果を反映させた教育活動を展開してほしい。
			3	生徒アンケート回答率85%以上		3	保護者アンケート回答率85%以上						
			2	生徒アンケート回答率80%以上		2	保護者アンケート回答率80%以上						
			1	生徒アンケート回答率80%以下		1	保護者アンケート回答率80%未満						
家庭・地域連携	適切な教育環境、設備等をお整える。	校務主事とも連携し、定期的に安全点検を行うとともに、校内美化に努める。	4	教職員アンケート「施設管理・校内美化」の項目で肯定的評価95%以上	4	4	保護者アンケート「施設管理・校内美化」の項目で肯定的評価95%以上	4	施設管理員を中心にきめ細やかな管理ができていく。計測していく。	非常に高い評価が得られているので、今年度と同じように、丁寧に取り組んでいく。	A	A	いつもきれいに整備されていてとてもよい。
			3	教職員アンケート「施設管理・校内美化」の項目で肯定的評価90%以上		3	保護者アンケート「施設管理・校内美化」の項目で肯定的評価90%以上						
			2	教職員アンケート「施設管理・校内美化」の項目で肯定的評価80%以上		2	保護者アンケート「施設管理・校内美化」の項目で肯定的評価80%以上						
			1	教職員アンケート「施設管理・校内美化」の項目で肯定的評価80%以下		1	保護者アンケート「施設管理・校内美化」の項目で肯定的評価80%未満						
家庭・地域連携	教育方針や日常の教育活動の様子などを家庭や地域に対して、工夫して分かりやすく伝える取組を行う。	月1回の学校だよりの発行、ホームページによる教育活動の発信を行う。	4	HPを2回以上更新できた週が全体の90%以上	4	4	保護者アンケート「学校生活の様子」に関する項目の肯定的評価が90%以上	3	教員で連携を図り、計画どおり行ってきたことが成果につながっている。生徒が保護者に通信を出していないケースもある。HPの保護者専用ページを知らない保護者も一定数いることが分かった。	学校だよりの発行は、今年度と同じように継続していく。HPの周知を定期的に行い、学校生活の様子をしっかりと伝えていく。	A	A	学年通信等があがっていることを知らない保護者もいるようである。HPを更新したときに、配信メールで知らせることも必要かもしれない。
			3	HPを2回以上更新できた週が全体の80%以上		3	保護者アンケート「学校生活の様子」に関する項目の肯定的評価が80%以上						
			2	HPを2回以上更新できた週が全体の70%以上		2	保護者アンケート「学校生活の様子」に関する項目の肯定的評価が70%以上						
			1	HPを2回以上更新できた週が全体の70%以下		1	保護者アンケート「学校生活の様子」に関する項目の肯定的評価が70%未満						
家庭・地域連携	地域・家庭と連携した教育活動を計画的に行う。	保護者会や三者面談を適切に実施するとともに、地域やと連携した行事へ積極的に参加する。	4	教職員アンケート「地域・家庭との連携」に関する項目で「肯定的評価90%以上	3	4	保護者アンケート「地域・家庭との連携」に関する項目で「肯定的評価90%以上	3	地域との連携に課題を感じている教員もいる。地域とのかかわりは週休日や勤務時間外が多いことも要因の1つである。生徒と地域のつながりはイベントを通して深まっている。	保護者会や三者面談は今年度と同じ回数実施する。教員の地域行事への参加は、可能な範囲で参加を促していく。	A	A	勤務時間外の連携について難しさを感じることは仕方がない。無理なくつながっていければよいと思う。
			3	教職員アンケート「地域・家庭との連携」に関する項目で「肯定的評価80%以上		3	保護者アンケート「地域・家庭との連携」に関する項目で「肯定的評価80%以上						
			2	教職員アンケート「地域・家庭との連携」に関する項目で「肯定的評価70%以上		2	保護者アンケート「地域・家庭との連携」に関する項目で「肯定的評価70%以上						
			1	教職員アンケート「地域・家庭との連携」に関する項目で「肯定的評価70%以下		1	保護者アンケート「地域・家庭との連携」に関する項目で「肯定的評価70%未満						

学力向上においては、一定の成果が上げられたと考えている。家庭学習の充実が推進できれば、さらなる成果につながるはずなので、次年度は力を入れていく。働き方改革においても少しずつではあるが改善されている。先生たちが子供に寄り添う時間の確保できるよう、業務整理を進めていく。来年度は学力向上とともに、人権学習や特別活動、キャリア教育を通した非認知能力の育成を推進し、予測困難な社会の中でよりよく生きる力を育てていく。